◆高校生部門
＜中央入賞＞優良賞　佐倉市・千葉黎明高３年、田邉菖一「私の農業研究と将来の夢」
＜地区入賞＞毎日新聞千葉支局長賞　大多喜町・県立鶴舞桜が丘高２年、岩瀬駿「ただ今、タケノコマイスター募集中！」▽茂原市・県立茂原樟陽高２年、山﨑優大「『未来へつなぐ、生き物との生活』～“ミヤコタナゴ”との共同生活を目指して～」

有機肥料栽培 評判呼ぶ

千葉黎明高3年 田邉菖一さん(18)

高校生部門・優良賞

部活動で実施している無農薬や有機栽培などの責任者。米、サツマイモ、落花生など、調べた上で調合した有機肥料をもとに栽培した農作物は、「収穫量も多いのに味もよい」と評判を呼び、学園祭や地域の祭りで目玉商品となっている。

佐倉市で専業農家を営む祖父母を幼いころから手伝う中で、手をかけるほど努力が形となって表れる農業の楽しさに目覚め、「将来は農業に」と夢を抱いた。

化学肥料を使わないため、草取りや害虫被害防止など地道で大変な作業が増えるが、ほぼ毎日、授業が終わると学校の畑に向かい、手をかけることで難題を克服してきた。

重視するのは実践と研究。現在、取り組んでいる有機栽培のカギを握る肥料の教科書はほとんどないため、東京・神田神保町の古書・専門書店まで出向くこともある。

30年以上の指導歴がある顧問の教諭は「ここまでやる子は見たことがない」と、その研究熱心さに舌を巻く。

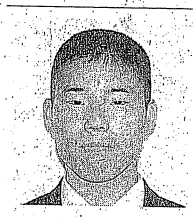
うまくいかなかった時は、その理由がわかるまで実験を繰り返す。目標は「消費者の健康のための食を追求したい」。栽培や販売方法など、多角的に農業を学ぶため、大学進学を目指して受験勉強に全力を注いでいる。【北川仁士】

高校生部門の優良賞を受賞した田邉菖一さん＝八街市の千葉黎明高校で

タケノコの専門家に

千葉支局長賞 岩瀬駿さん(17)

「突然電話があり、何事かと驚いた」。10月に岡山県で開かれた日本学校農業クラブ全国大会では、農業鑑定競技会で優秀賞に輝き、農業記録賞と二重の喜びに沸いている。


岩瀬駿さん

大多喜町平沢地区の農家の長男。「今、学校が楽しい」と充実した生活を送る。

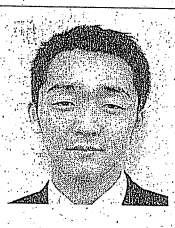
自宅は町特産の「平沢のタケノコ」を栽培する。尊敬する祖父を見習い、将来は「タケノコマイスター」を目指す。栽培から加工、販売、さらに料理までタケノコのすべてに精通した人のことで、「私が作った造語」だという。

受賞作では、高齢化によるタケノコ農家の減少の危機を指摘。タケノコ以外のシーズンを生かした「平沢」地区の活性化を思い描いく。【吉村建二】

水生生物との共生を

千葉支局長賞 山﨑優大さん(17)

「受賞の知らせは母から聞いた。最初、冗談かと思った」と笑顔を見せた。美しい里山風景が広がる環境の中で育った。毎年、田畑に隣接する水路で行われる国の天然記念物「ミヤコタナゴ」の生態調査に参加。農村の近代化が進み、水生生物の生息環境が破壊されている現実を知り、「人間との共生」を考えるようになった。


山﨑優大さん

「生き物たちの環境と人間の快適さを両立させたい」という夢を持つ。担任教諭からは「その開拓者になれ」と声を掛けられた。学校では農業土木コースで基礎を学ぶ。「水生生物が泳ぐ水槽の中に人間の住まいがあるイメージ」。夢も持ち続ければ必ず実現できると信じている。【吉村建二】